

令和元年度
野田市立南図書館、野田市立北図書館、野田市南コミュニティ会館
及び野田市北コミュニティ会館指定管理者管理運営状況調査
 担当課 興風図書館

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
利用者の平等利用が確保されること	①平等利用確保への取組	B	B	
	②児童・障がい者・高齢者への配慮	B	B	
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	①施設の利用促進に向けた取組	B	B	
	②児童・青少年層への読書普及のための取組	B	B	
	③レファレンスサービス充実のための取組	B	B	
	④サービス向上のための取組状況	B	B	
	⑤自主事業の取組	B	B	
個人情報の適切な保護が図られていること	①個人情報保護のための取組	B	B	
緊急時の危機管理体制が確立されていること	①施設の安全管理、緊急時の危機管理のための取組	B	B	
	②利用者の要望及び苦情への対応の取組	B	B	
現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること	①現金の取扱い等の適切な経理処理についての取組	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る経費の収支見込について	B	B	
	②管理経費縮減のための取組	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際し、地元業者へ配慮すること	①地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	①人員配置について	B	B	
	②職員の指揮監督・管理体制について	B	B	
	③人材育成の取組	B	B	

総合所見

図書館の利用状況は、各種の利用促進に向けた取組や児童・青少年層への読書普及のための取組を通じて利用促進に努めましたが、12月末時点における前年同月比で、南図書館の個人貸出点数は-2,219点（約1.3%）の減、北図書館は-19,414点（約11.1%）の減となりました。

また、個人利用登録者数も、12月末時点の前年同月比で南図書館-196人（約2.1%減）、北図書館-243人（約2.4%減）と減少しています。

このところ長く続いている出版不況に見られるように、インターネットや携帯端末、電子書籍等の普及による情報取得手段（メディア利用形態）の多様化の影響により、図書館の貸出点数及び登録者数の減少は野田市に限らず全国的な傾向ですが、今後も引き続き各種の利用促進に向けた取組や読書普及事業を実施することを通じて利用促進に努めてもらいたい。

コミュニティ会館の利用状況は、12月末時点における前年同月比で、南コミュニティ会館の利用件数が-213件（約6.1%減）、利用人数が-3,751人（約10.1%減）となり、北コミュニティ会館の利用件数が-328件（約8.2%減）、利用人数が-4,671人（約9.3%減）となりました。

コミュニティ会館の利用件数及び利用者数の減少の主な原因は、高齢化等の理由による定期利用団体数の減少や会員数の減少に加えて、夏の猛暑や秋の台風などの影響が考えられます。

今後も引き続き各種の取組などを通じて利用促進に努めてもらいたい。

各評価項目については、指定管理者はすべての評価項目についてBと自己評価しています。

利用促進に向けた事業や、児童・青少年層への読書普及のための事業など、南図書館及び北図書館ともに多様な各種の事業を実施しており、未実施の事業や代替で実施した事業もなく、おおむね業務計画書のとおり適切に実施されていることから、担当課としてすべての評価項目についてBと評価しました。

人員配置、研修、施設の保守点検については、おおむね業務計画書のとおり実施されており、仕様書の水準を満たしていると認められます。

ただし、一部の点検について結果報告に漏れが生じたため、今後は遅滞なく報告するよう指導しました。

11月27日及び28日に担当課による施設点検を行ったところ、建築後30年以上が経過しているため経年劣化が見られ、屋根や外壁等の防水機能の低下による雨漏りや設備機器等の不具合が確認されましたので、南コミュニティセンターについては次年度当初予算に外壁及び屋上の防水工事と空調改修工事の設計委託料を要求しています。

また、北コミュニティセンターについても南コミュニティセンターの後に外壁及び屋上の防水工事の設計委託料を要求し、順次改修を行っていく予定です。

経費の収支見込は、収入については定期的に利用していた団体の減少によりコミュニティ会館の利用料金収入が少なくなる見込みであり、一方、支出については電気料や灯油の単価の上昇により光熱水費や燃料費の支出が増える見込みであるため、収支は、支出が収入を超過する見込みですが、支出超過の主な原因は電気料や灯油代の上昇であり、一時的なものであると考えられるため、支出の超過はやむをえないと考えます。

指定管理者である共同事業体「野田TRCグループ」の代表構成団体である株式会社図書館流通センターは、直近の貸借対照表及び損益計算書により経営が安定しているものと評価します。

総合所見としては、南・北図書館及び南・北コミュニティ会館の利用が減少傾向にあるものの、施設の利用促進に向けた取組は数多く行われており、全般的にはおおむね適正に管理運営が行われていると評価します。